

歌集

晩色

山下秀之助

歌 集
晩 色

原始林叢書第66篇

昭和四十九年七月五日印刷
昭和四十九年七月十五日發行 ©一九七四

定価 一七〇〇円

著作者 山下 秀之助

162 東京都新宿区市谷富久町一二三

発行者 吉岡 一郎

印刷者 児玉 幸男

発行所 柏葉書院

東京都渋谷区代々木四一七(大賀ビル)

電話 東京 三七〇一六四七三

振替 東京 三三九二八

原始林叢書第六六篇

歌集

山下秀之助

柏葉書院刊

晚
色
目
次

I 昭和四十四年七月—四十五年十二月

リラと郭公

三

死に近き人

三

横浜外人墓地

六

白根火口湖

三

霜月のうた

三

萩寺と普門院

四

川越初雁城

四

むつきぎさらぎ

七

春色日々

刑死者慰霊塔

雨期悼亡

盛夏風物

伊豆山・鎌倉・京都

会津秋遊

立　冬

市谷自衛隊前

三

三

三

三

三

三

三

三

Ⅱ　昭和四十六年一月——四十七年十二月

正月縁起
寒木瓜
妻を率て
木場界限
ゴロダの丘
鈴虫と蓑と
入間の里
冷たい春
目黒界限
三社祭

一〇二
一〇七
一一三
一二九
一三七
一三三
一三九
一四四
一五五
一六六

松島一夜

一六

虹の半円

一七

婦郷

一七

水掛不動

一八

Ⅲ 昭和四十八年一月—四十九年三月

富久町初春

一八

弥生卯月

一九

平林禪寺

二〇

S字状結腸切除

二〇

後 記	除夜の鐘	枯 林抄	霜月独居	凄 涼	病 後録
--------	------	---------	------	--------	---------

山
下

愛					
三 五	三 三	三 三	三 九	三 六	二 九

晚 色

I

昭和四十四年七月——四十五年十二月

リラと郭公

相並び妻と空ゆく一時間ああ淡々と生きこし
われら

わが妻が逢ひたがりしを曳かれつつ出でくる
樺太犬タロものう懶げに

南極に生き残りし汝も老いぼれて口開きて見
さす齒の顔れを

植物園のリラ多種類に花咲きて妻とよろこぶ
短かき午前

郭公は近く来鳴きてこの館の深き木立に安ん
じゐるか

北三十条過ぐる頃より雨つよみ車は西へ排水
渠に添ふ

君が詠む防風林と指させど雨に煙らふ西の空
くらし

溢れんとばかり疾とばしる水路わき草叩きつけ
白けぶる雨